

## モデル施設における効果検証について

## 1 目的

モデル施設において、光警報装置に係る設置方法の妥当性及び設置時の留意事項等について、検証を行う。

## 2 効果検証について

## (1) 効果検証の目的

効果検証にあたっては、次の観点からの検証を行うこととしてはどうか。

## ア 設置方法の妥当性

各用途の防火対象物において、光による警報に気づくために必要な設置方法となっているかどうかについて検証を行う。

## (ア) 場所による違い

- ・ 光警報の障害となるような場所（柱の陰等）における気づき
- ・ 部屋の隅等、直接の照度の低い場所における気づき
- ・ 周辺の明るさによる光警報の気づきの違い

※ 検証にあたっては、部屋の床、壁紙の材質など、各条件を正確に把握した上で検証を進めていくことに留意する。

## (イ) 周辺の状況（他の在館者がいる場合）による違い

- ・ 不特定多数の在館者が集まる場所にいる場合
- ・ トイレ等、一人になる場所にいる場合
- ・ 特定の行為（買い物、展示物の観覧等）を行っている場合
- ・ 廊下等を移動している場合

## イ 光警報を認識した後の安全な避難行動の実現性

光による警報により避難を開始した際に、安全かつ円滑に避難行動を行えるかどうかについて検証を行う。

- ・ 誘導灯や避難口等の避難経路を容易に確認できるかどうか（点滅式誘導灯等、光による避難設備等との関係性についても検証を行う。）。)
- ・ 非常放送との連動の必要性（放送設備使用時においても光警報を継続する必要があるか等）

## (2) 実施方法

モデル施設において、消防計画に基づく訓練の実施時に併せて、聴覚障がい者、高齢者及び建物関係者等を交えた訓練を行い、検証を実施する。聴覚障がい者及び高齢者の訓練参加者は、事業主体を通じて参加を募る。訓練終

了後に、参加者にアンケート調査を行う。

訓練の実施方法は、次の手順で実施する。

ア 訓練参加者に対し、事前に検証内容や観点を説明した上で検証を行う。

イ 検証場所は、用途ごとに特徴的な部分を選定して行うこととし、訓練者の配置も有効な検証が行える位置とする。

ウ 光警報を伴う訓練火災警報を作動させ、避難訓練を実施する。この場合、建物関係者等は消防計画に基づき、初期消火や避難誘導を行う。

※ 光による警報のみ若しくは音による警報のみを作動させることは付加的な工事が必要となるため、効果検証では光と音を同時に作動させることとする。

### (3) アンケート調査の実施

訓練実施後、訓練に参加した聴覚障がい者、高齢者、建物関係者にそれぞれアンケート調査を実施する。

聴覚障がい者及び高齢者に対しては、光警報の気づきやすさ、避難行動の容易さ等を中心に調査するとともに、建物関係者に対しては避難誘導を行う上での光警報の有効性等について調査する。

なお、アンケート調査項目については、各用途に共通する事項及び施設の用途の特性に応じた項目について調査する方針とする。